

花と食のフェスティバル

【那覇】「おきなわ花と食のフェスティバル2009」（同フェスティバル推進本部主催）が7、8の両日、那覇市の奥武山総合運動公園で盛大に開催された。「ていだサンサン、食べたらがんじゅう、沖縄産！」をキャッチコピーに、新鮮で良質な沖縄の農林水産物、加工品などを広く県民に紹介、地産地消をアピールするイベント。水産物の店舗には沖縄県漁連、本部漁協、三高水産、那覇市沿岸漁協などが出店。天候に恵まれたこともあり、多くの来場者でにぎわった。

同フェスティバルは県内農林水産関係では最大

水産物コーナー大繁盛 地産地消をアピール



本部漁協は開発商品をテストマーケティング



沖縄県女性部連合会は各漁協の加工品を販売



那覇市沿岸漁協のアオザメバーガーはすぐに完売した

規模のイベント。県農林水産部、JF、JAが組織の総力を挙げて取り組んでいる。水産物店舗は「海鮮市場」としてグループ化。沖縄県漁連はモスク加工品、モスク炊き込みご飯と魚汁などを販売、最終行列ができる繁盛ぶり。本部漁協は従来

の漁協加工品のほかに、モスクイカハンバーグ、モスクまんじゅう、モスクソース入りアイスクリームなどの開発商品も販売。同漁協では開発商品に対する消費者アンケートも実施、テストマーケティングした。真栄田正男

は「伊江島おっかい自慢のイカ墨じゅーしいの（くし）カツ、マグロ竜めめのビデオ放映、レシビ田揚げ、マグロハンバー

を販売、人気を呼んだ。お客の反応は今後の加工品販売に生かせる」と手応えを得た様子。沖縄県漁協女性部連合会は「伊江島おっかい自慢のイカ墨じゅーしいの（くし）カツ、マグロ竜めめのビデオ放映、レシビ田揚げ、マグロハンバー



沖縄県漁連のブースは終日黒山の人だかり

グ、マグロ炊き込みごはんなどマグロをメインにした加工品を販売、終日黒山の人だかりとなった。県車海老漁協はクルマエビの串焼きを販売。（株）サウザはモスクフコイタン入りせつけん、化粧液などを実演販売。

沖縄県漁協モスク生産グループの「男前モスク店」もモスクてんぷら、モスクタコスを実演販売。新商品モスクタコスは珍しさもあってフェスティバル2日目午後2時

すぎには完売状態に。モスクてんぷらは野菜魚イカ入りの3種類準備。飛ばように売れていた。

県水産課はモスク、ソ